

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
保育実習指導 I		1年	通年	別途、時間割参照
Guidance and Evaluation on Child Care Practice I				
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	演習	選択	(保育士養成課程必修)	児童フィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
保育士養成課程必修科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
保育士養成課程科目				
担当に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
高橋登美子	講義棟3階	火・水・金 (授業時間を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、それぞれの実習内容と特徴、実習に臨む際に必要な準備や注意点、心構えを明確にしていく。保育実習の意義や目的を理解しながら、保育士の仕事や社会的な役割を学習する。				
授業の目標				
①保育学生としての挨拶・電話のかけ方・言葉遣い・必要書類の扱い方など、事前の準備ができるようにする。 ②保育実習の意義・目的の理解に努め、自らの課題を明確にすることができるようにする。 ③観察・実践・記録を通して実習計画と向かい合い、子どもの人権と最善の利益を考慮したプライバシー保護と守秘義務を実践することができるようにする。				
授業の方法				
「保育実習の意義・目的」の理解ができるように、「実習に対する明確な目的」が設定できるように、「観点を捉えた記録」の記述ができるように、様々な確認事項に対しての演習活動をひとつひとつ丁寧に取り組む。				
学習の成果 (学習成果)				
①実習の意義・目的を理解することで、実習に臨む態度や姿勢を理解した内容や活動の実習準備をすることができる。 ②施設の機能や特徴に合わせた実習計画を立て、実習生としての心構えを踏まえた明確な課題と目的を持つことができる。 ③保育環境・幼児の姿・保育士のかかわり・実習への取り組みなど、実践を通じた学びから適切な用語や表現を用いて記録に残すことができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス (通年科目としての授業の進め方、授業の出欠席や課題、実習計画について)			
第2回目	保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲのそれぞれの実習内容と特徴や時期について			
第3回目	保育実習Ⅰの実習施設検討 (公立保育所・私立保育園について)			
第4回目	保育実習と教育実習の違いを知る (管轄、対象年齢、資格・免許、実習時間など)			
第5回目	実習に臨む基本的事項の学び (電話連絡・応対時の言葉遣いについて)			
第6回目	実習に臨む基本的事項の学び (実習施設訪問、実習内諾書の取り扱い方について)			
第7回目	実習に臨む基本的事項の学び (実習内諾書の扱い方の確認と学校提出について)			
第8回目	実習に臨む基本的事項の学び (実習施設におけるオリエンテーションについて)			
第9回目	実習に関わる抗体検査の実施と、抗体検査結果表の扱い方・保管・提示の方法を知る			
第10回目	保育教材「紙芝居」製作についての確認と「ペープサート」の作成			
第11回目	実習生調査票の記入に関する注意事項の確認			
第12回目	一日体験実習に関する注意事項の確認			

第13回目	一日体験実習に関する事前準備と実習先調整		
第14回目	保育実習の意義と目的の確認と、プライバシーに保護・守秘義務について		
第15回目	夏期休業中の取り組みと、自主実習に関する注意事項の確認		
第16回目	実習に対する課題と目的の設定		
第17回目	実習に対する課題と目的の設定に向けた実習計画を立てる		
第18回目	実習日誌の必要性と取り扱いを知る		
第19回目	実習日誌の記録内容に関する注意事項を確認		
第20回目	実習日誌の記録の取り方、記録の方法、記述内容の観点を確認		
第21回目	映像教材「保育者を目指すあなたへある幼稚園教諭の一日」(30分) 保育への取り組みを学ぶ		
第22回目	実習日誌の記録に向けての準備確認 (筆記用具、メモ帳、用語など)		
第23回目	映像教材「低年齢児の保育 1歳児編」(30分) 低年齢児保育の特徴に触れる		
第24回目	映像教材「低年齢児の保育 2歳児編」(30分) 低年齢児とのかかわりの注意事項を確認		
第25回目	部分実習の取り組みを考える		
第26回目	部分実習の指導案作成に取り組む		
第27回目	部分実習の教材研究について確認		
第28回目	実習計画の作成と提出		
第29回目	実習計画に基づく課題と目的の確認 (小テスト)		
第30回目	実習施設に応じた実習内容の確認と事前準備の確認		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度		20%	出欠の点呼には必ずはっきりと返事をする。私語や居眠りは、実習に臨む学生の態度として適さない行動であると判断する。
レポート		20%	一日体験実習の課題レポート提出。 実習内容や実習に対する省察が明確に示してあること。
調査報告書		20%	実習のふりかえり (自己評価含む) の提出。 子どもの気付き、保育者の取り組み、自分の今後への課題が明確に示してあること。
小テスト		20%	授業内容の認識事項を小テストで確認する。テスト内容については授業内で示す。 適切な用語と表現を用いての記入が必要。
試験			
発表内容 (態度含む)		20%	手作り「紙芝居」を製作する。子どもの発達を考慮した内容であるか、丁寧に仕上げているか、色づかいが適切であるかを確認する。提出期限を授業内で指示するので厳守すること。
その他			
教科書と参考図書			
「保育実習の手引き」：佐野短期大学			
履修上の留意点・ルール			
保育学生としての、社会的立場を考慮した履修態度に心がけていただきたい。多欠席や実習準備に不備がある場合は、実習に臨むことが困難になる場合もある。遅刻・早退3回は欠席1回として扱い、欠席が3回続いた場合は状況確認と面談を行う。実習を控えた16回目以降の授業多欠席(4回以上)は実習の延期を考慮することとする。図書館を活用し、実習に関する書籍に多く目を通すこと			